

人と自然との共生



理事長 松田 芳夫

近年、河川を場とするスポーツ・レクリエーション活動や自然探索運動が盛んになり、河川と付き合う人々が増えて来たことは河川に縁の深い仕事をしている者にとって大変嬉しいことです。

河川の水がきれいになり水辺へ近づくことが不快でなくなったこと、自然の生態への関心が高まってきたこと、川を舞台にした市民の自発的な活動が盛んになってきたことなど色々な理由があるのでしょう。

昨年は一昨年に引き続き、全国各地で水害があり、とくに猛烈な豪雨で局地的な浸水のため建物の地下室で人が亡くなるというショッキングな出来事が福岡と東京とで連続して発生し驚かされました。

又、神奈川県酒匂川の上流で、河原でキャンプをしていた人々が洪水に襲われて13人もの人々が亡くなるという事故があり、河川の恐ろしさを再認識させられました。

最近の雨の特徴として、時間雨量100～130mmという、古典的な河川技術者にとっては信じられないような強い雨があちこちで発生するようになりました。

地球の温暖化が進むと雨の降り方が乱暴になり、集中豪雨が増えるという見方もあり、時間雨量50mm対応の河川整備だの、100分の1の洪水確率の河川改修計画などという従来の河川計画の手法があまり意味を持たなくなることすら考えておかねばなりません。

今後は浸水のおそれのある低地には建物を建てないようにするという土地利用規則とか、いざ災害の発生しそうなときには事前の適切な予報の下に避難することかのソフトな施策が重要となってきます。

こういう移り気な厳しい自然条件の下で、河川の整備や自然生態の回復を考えていこうというのですから話しは複雑で、私たちは河川を取りまく流域やその土地利用あるいは水の循環という分野についても理解していかねばなりません。

今まで過去数千年にわたり人間は技術の粋を尽くして自然を征服し制御することに力を入れてきましたが、2000年代には自然をなだめ、すかし、あまり無茶をさせないようにしながら、我々もへりくだって力にまかせた無理押しをしないうという共存型の付き合いが重要になってきます。

そしてその為の技術すなわち自然と人間とが共生する技術、ひいては自然との共存共栄を図るライフスタイルの確立が人間の文明を持続性のあるものとするための重要な目標になるものと思われまます。

リバーフロント整備センターの活動も、そのような大きな目標のほんの一部にでも寄与することが使命であると考え、役職員一同、今年も精一杯努力して参る決意でありますので、皆様方の御支援・御助言をよろしくお願い致します。